

平成28年度 歯科衛生士実態調査

《組織・調査部》

大阪府歯科衛生士会では、毎年「歯科衛生士勤務実態調査」を行っております。今年度は、歯科衛生士養成機関にご協力いただき卒業生の実態調査を実施しましたので、結果について以下のとおり報告いたします。

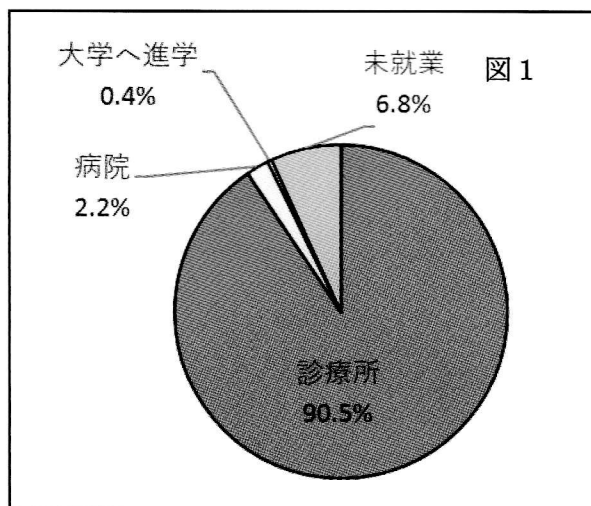
平成28年7月12日に大阪府内の卒業生のいる歯科衛生士養成機関13校（昼夜間部があるところは2件とカウント）にアンケートを送付し、卒業生の実態について調査いたしました。

<調査結果>

1. 回答が得られたのは13校中9校でした。
(回答率69.2%)

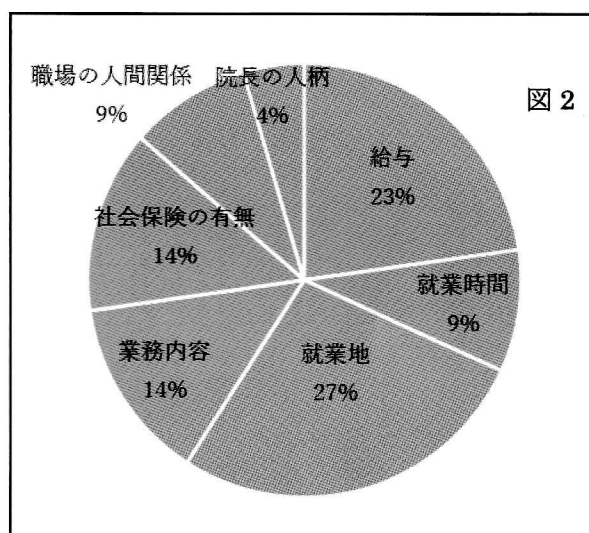
2. 卒業生の進路の内訳について（図1）

回答のあったもののうち就職者数424人中412人が診療所に就職していました。



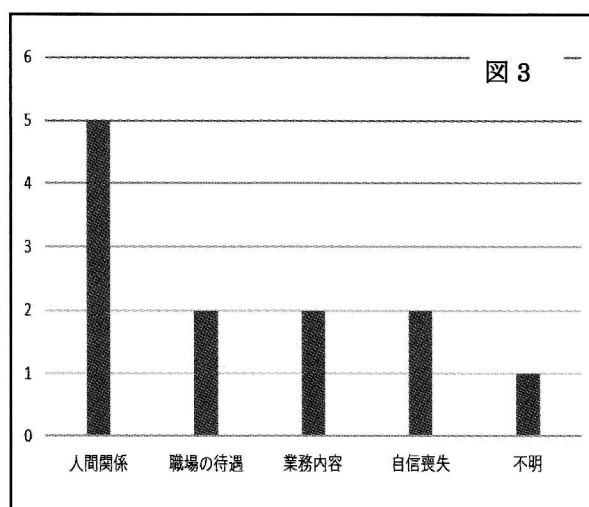
3. 卒業生が勤務条件として重視した項目（図2）

回答のあったもののうち勤務条件として重視した項目は就業地・給与、ついで就業内容、業務時間、社会保険の有無、職場の人間関係、院長の人柄でした。



4. 卒業生で勤務先の主な変更理由（図3）

卒後1年以内に勤務先を変更した人数は9校合計で18名あり、勤務先の主な変更理由は、人間関係・ついで職場の待遇、業務内容、自信喪失でした。



5. 過去3年間の平均求人倍率(平均求人件数)について(表1)

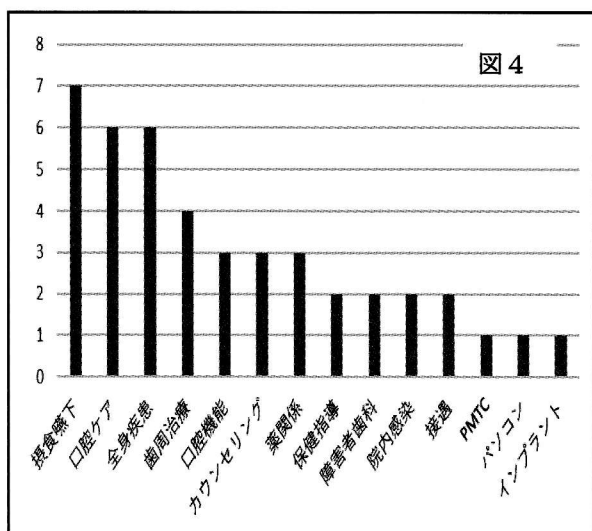
表1 歯科衛生士平均求人倍率および件数

	H25	H26	H27
平均求人倍率(倍)	18.75	18.2	18.7
平均求人件数(件)	868.2	918.9	957.7

6. 卒業生に受講させたい研修内容(図4)

(複数回答可)

回答のあったもののうち、卒業生に受講させたい研修内容は、摂食嚥下、口腔ケア、全身疾患、歯周治療、口腔機能、カウンセリング、薬関係等でした。



7. 卒業生からの相談内容

回答のあったもののうち、よく聞く卒業生の相談内容は以下のとおりです。

- ・職場の人間関係 ・職場の待遇
- ・業務内容・業務量 ・自信喪失・再就職

8. 歯科衛生士会の事業の活用について

在校生や卒業生は活用しているかという問いに対しては、4校が活用している、4校がわからない、1校が未回答でした。活用できるように担当の先生からお声かけしていただいているかの問いには、8校が声かけしている、1校が未回答でした。

〈まとめ〉

卒業生の進路は診療所がほぼ9割を占め、卒業生が勤務条件として重視した項目は、就業地、給料が上位になり、業務内容、就業時間はそれに次ぐものとなりました。

卒業生の勤務先変更の主な理由として、人間関係、職場の待遇と続き、就職時にはわからない部分で職場を変更している者が多いことがうかがえました。

歯科衛生士の平均求人倍率は18倍を越えており、周術期口腔機能管理等、歯科衛生士の業務に対して保険点数の加算がついたものが増え、日本歯科医師会でも、歯科衛生士不足は問題視されています。家庭に入ってしまった潜在歯科衛生士の掘り起こしも歯科衛生士会のひとつの課題ではないかと思われます。

卒業生に受講させたい研修内容は、上位3項目が摂食嚥下、口腔ケア、全身疾患となり、う蝕予防の研修内容の希望はありませんでした。歯科衛生士の業務範囲が広くなり、口腔内だけの問題では治まらない範囲の研修が、ますます必要となっているようです。

卒業生からの相談内容では、人間関係が上位を占め、職場待遇がそれに続く。実際に働くようになり、業務内容、歯科衛生士の業務ができないと、日々の業務に疑問を持ち相談する卒業生が多く、前述のように勤務先の変更や離職の原因ともなっていることがわかりました。歯科衛生士会としても離職率を少しでも低くするため、新卒者に対する懇親会等を企画し、職場での悩み等を聴けるサポート体制を整える必要があると思われます。

これらの結果を踏まえ、本会としては今後歯科衛生士業務の様々な課題に取り組み、より良い歯科衛生士業務の開拓に寄与するため、さらに歯科衛生士養成機関と連携を図っていきたいと考えています。

最後になりましたが、ご協力いただきました歯科衛生士養成機関の先生方皆様に厚くお礼を申し上げます。